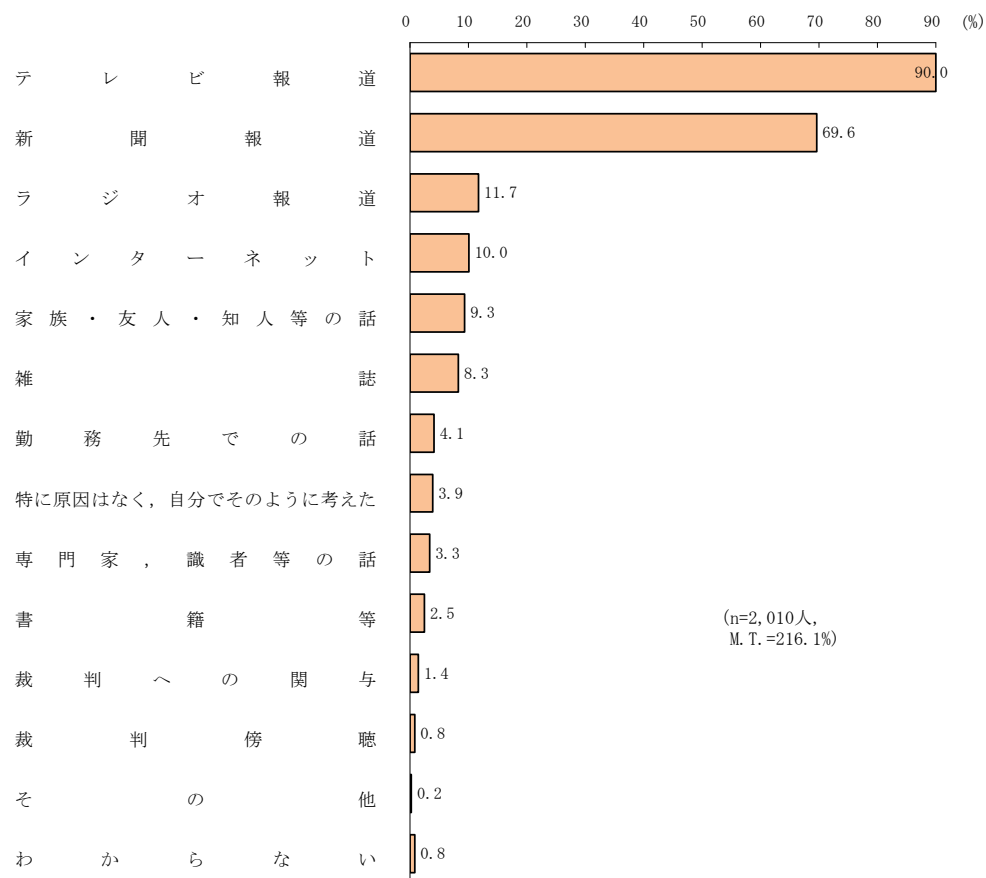


8 裁判員制度の実施後の変化についてQ7の印象を持つことになった原因

Q8 「回答票8」あなたが前問のような印象を持つことになった原因は何ですか。この中からいくつでもあげてください。(M. A.)



裁判員制度の実施後の変化についてQ7の印象を持つことになった原因としては、「テレビ報道」が90.0%と最も高く、次いで「新聞報道」が69.6%であった。

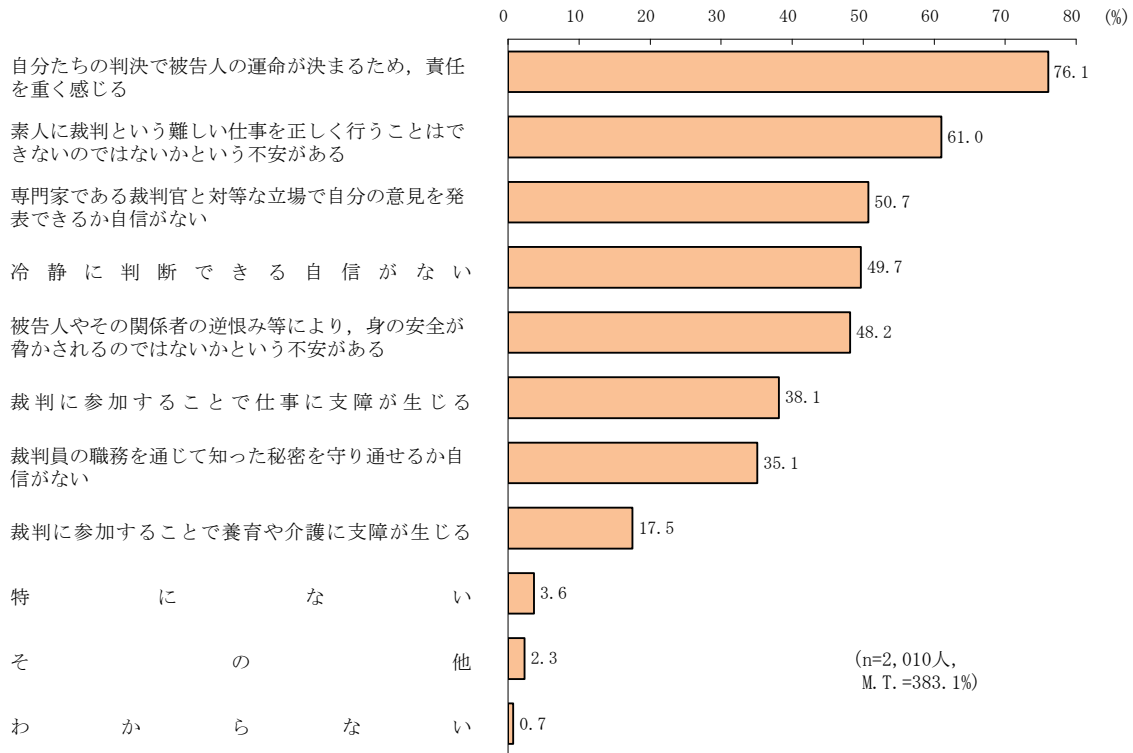
	該当数 (n)	新聞報道	雑誌	書籍等	テレビ報道	ラジオ報道	インターネット	裁判への関与	裁判傍聴	家族・友人・知人等の話	勤務先での話	専門家、識者等の話	特に原因はなく、自分でそのように考えた	その他	わからない	回答計
【性別】																
男性	983	72.1	9.6	3.6	89.2	14.3	13.9	1.4	0.8	6.8	4.9	3.4	4.3	0.1	0.4	224.8
女性	1027	67.2	7.1	1.5	90.7	9.2	6.3	1.5	0.8	11.7	3.4	3.3	3.5	0.3	1.3	207.7
【年齢別】																
20～29歳	268	45.5	4.9	1.9	86.6	6.0	19.8	3.0	1.9	10.1	3.4	4.5	6.3	0.4	-	194.0
30～39歳	370	63.2	7.6	1.1	91.1	10.5	14.1	1.6	0.8	8.1	6.2	1.6	4.6	0.3	0.3	211.1
40～49歳	315	70.2	9.5	2.9	92.4	11.7	16.8	1.9	0.6	8.6	6.3	3.8	2.9	-	-	227.6
50～59歳	336	79.5	8.3	4.5	89.3	10.7	7.4	0.6	0.3	8.6	3.6	4.2	4.2	-	0.9	222.0
60～69歳	347	83.3	13.0	4.3	93.4	18.4	3.7	-	0.6	13.8	5.2	4.0	1.7	0.3	0.6	242.4
70歳以上	374	71.1	6.1	0.5	86.9	11.5	1.6	1.9	0.8	7.0	0.3	2.4	4.0	0.3	2.9	197.3
【職業別】																
お勤め	680	67.5	8.5	3.4	91.3	11.6	16.2	1.6	0.6	6.8	7.4	4.1	4.1	0.1	0.4	223.7
自営・自由業	285	72.6	10.5	2.1	86.3	15.8	10.9	1.4	0.4	8.4	3.9	2.1	4.9	-	0.4	219.6
パート・アルバイト	214	67.3	4.7	1.9	91.1	12.6	7.5	2.3	1.4	13.6	8.4	1.9	4.7	0.5	-	217.8
専業主婦・専業主夫	465	68.6	7.1	0.6	91.8	8.6	4.9	1.1	1.1	11.2	-	2.6	2.4	-	1.5	201.5
学生	48	45.8	4.2	6.3	79.2	4.2	20.8	2.1	2.1	14.6	-	12.5	10.4	2.1	-	204.2
無職	316	77.8	10.8	3.5	88.6	13.3	3.8	0.9	0.6	8.9	0.9	3.5	3.2	0.3	1.9	218.0
その他	2	100.0	-	-	100.0	-	-	-	-	50.0	50.0	-	-	-	-	300.0

年齢別にみると、「新聞報道」は50代・60代で高く、「インターネット」は20～40代で高くなっている。

9 裁判に参加する場合の心配や支障となるもの

Q9 [回答票9] あなたが刑事裁判に参加するとした場合、あなたにとって心配や支障となるものはどれですか。当てはまると思うものを、次の中からすべてお聞かせください。

(M. A.)



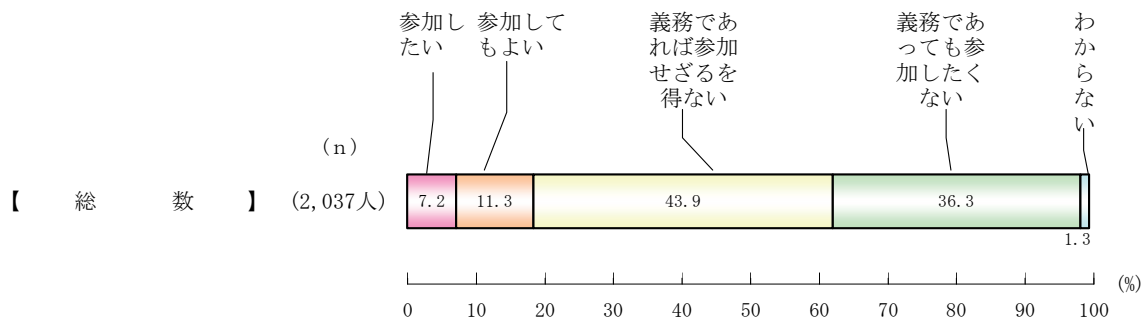
刑事裁判に参加するとした場合に心配や支障となるものとしては、「自分たちの判決で被告人の運命が決まるため、責任を重く感じる」が76.1%と最も高い。

該当数 (n)	重く感じる	自分たちの判決で、被告人の運命が決まる	安んずる	素人に裁判という難しい仕事を正しく行うことはできないのではないかと不安がある	専門家である裁判官と対等な立場で自分の意見を発表できるか自信がない	冷静に判断できる自信がない	被告人やその関係者の逆恨み等により、身の安全が脅かされるのではないかと不安がある	裁判に参加することで仕事に支障が生じる	裁判員の職務を通じて知った秘密を守り通せるか自信がない	養育や介護に支障が生じる	特になし	その他	わからない	回答計
【性別】														
男性	983	70.9	54.6	44.9	41.4	43.5	35.2	46.7	11.1	4.5	2.4	0.6	355.8	
女性	1027	81.0	67.1	56.4	57.6	52.6	35.1	29.9	23.7	2.8	2.2	0.9	409.3	
【年齢別】														
20～29歳	268	70.5	54.5	43.7	36.9	48.5	31.7	38.8	12.7	1.9	0.4	0.7	340.3	
30～39歳	370	76.2	56.2	46.5	45.7	51.6	33.0	47.3	27.6	2.4	0.5	0.3	387.3	
40～49歳	315	79.4	59.0	47.0	43.2	54.3	38.4	54.9	20.6	2.2	0.6	0.3	400.0	
50～59歳	336	80.4	62.5	49.7	54.2	44.6	36.9	47.3	16.7	3.3	2.4	-	397.9	
60～69歳	347	81.3	69.2	62.0	62.8	48.1	39.8	32.3	16.7	3.2	3.7	0.6	419.6	
70歳以上	374	68.4	63.1	53.7	52.1	42.5	31.0	11.5	9.9	8.0	5.6	2.4	348.4	
【職業別】														
お勤め	680	72.1	53.8	42.5	41.0	45.7	34.6	56.2	12.8	3.2	0.9	0.4	363.2	
自営・自由業	285	73.0	64.6	49.8	42.5	41.4	37.2	58.9	13.0	3.5	2.1	0.4	386.3	
パート・アルバイト	214	85.0	65.4	57.9	58.9	55.6	37.9	42.1	28.0	1.4	0.9	0.5	433.6	
専業主婦・専業主夫	465	80.9	67.1	57.2	61.1	55.5	33.5	16.1	27.7	3.4	2.4	1.3	406.2	
学生	48	75.0	60.4	52.1	33.3	45.8	31.3	14.6	6.3	-	-	-	354.2	
無職	316	75.0	61.1	55.1	54.4	44.0	35.1	11.4	10.1	6.0	7.0	1.3	360.4	
その他	2	-	100.0	-	50.0	50.0	-	-	-	-	-	-	200.0	

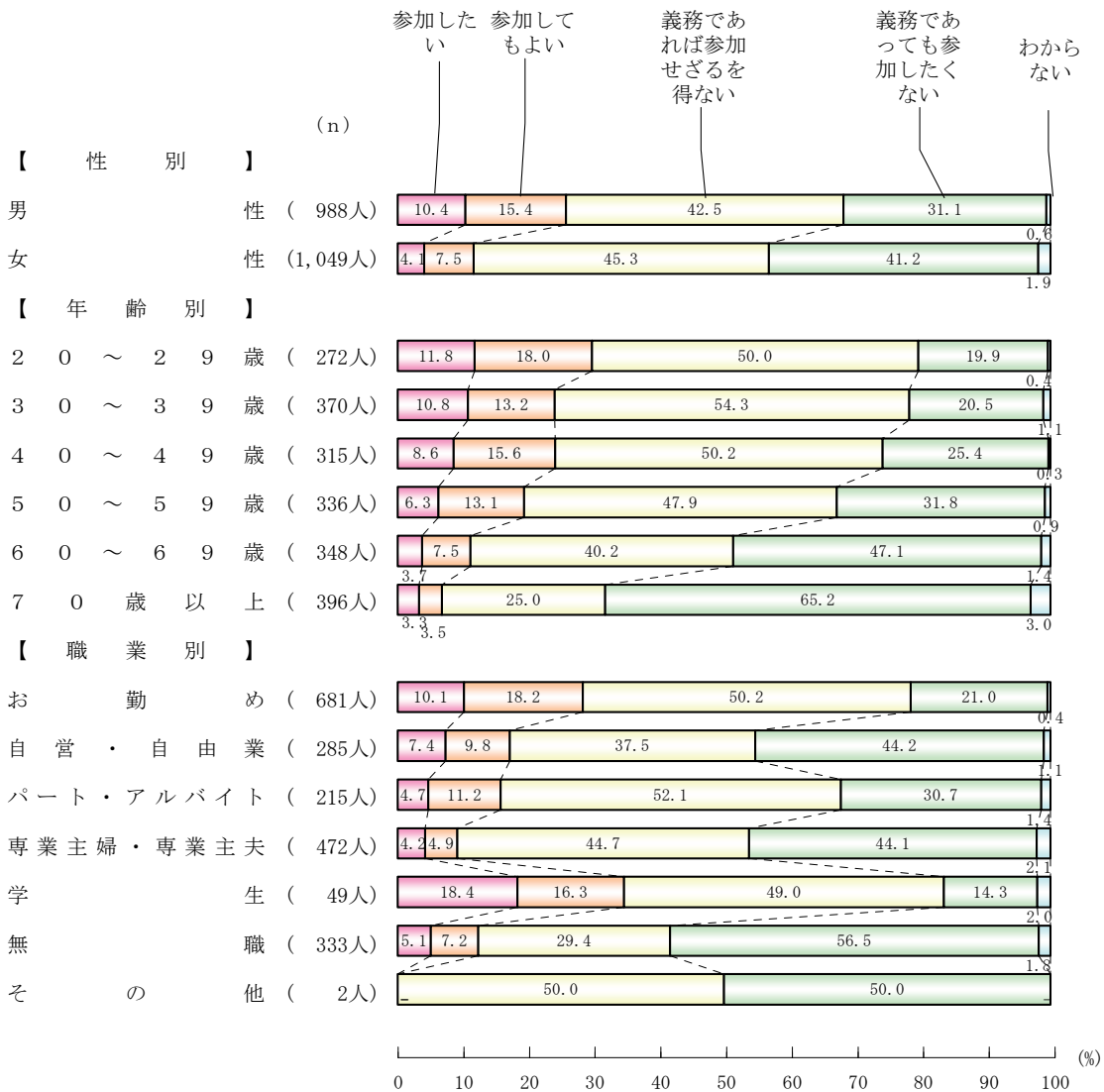
「自分たちの判決で被告人の運命が決まるため、責任を重く感じる」は、男女別にみると、男性よりも女性で高く、年齢別にみると、20代と70歳以上では他の年代よりも低く、50代・60代で高くなっている。

10 裁判員として刑事裁判に参加したいか

Q10 [回答票10] あなたは裁判員として刑事裁判に参加したいと思いますか。



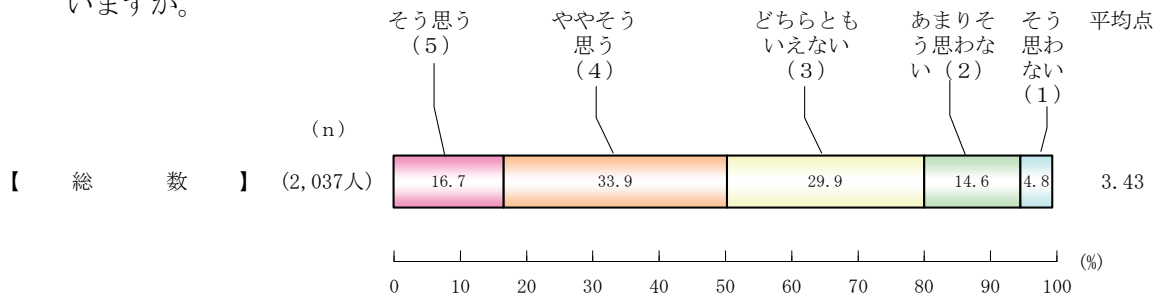
裁判員として刑事裁判に参加したいかどうかについては、「参加したい」が7.2%、「参加してもよい」が11.3%、「あまり参加したくないが、義務であれば参加せざるを得ない」が43.9%、「義務であっても参加したくない」が36.3%である。



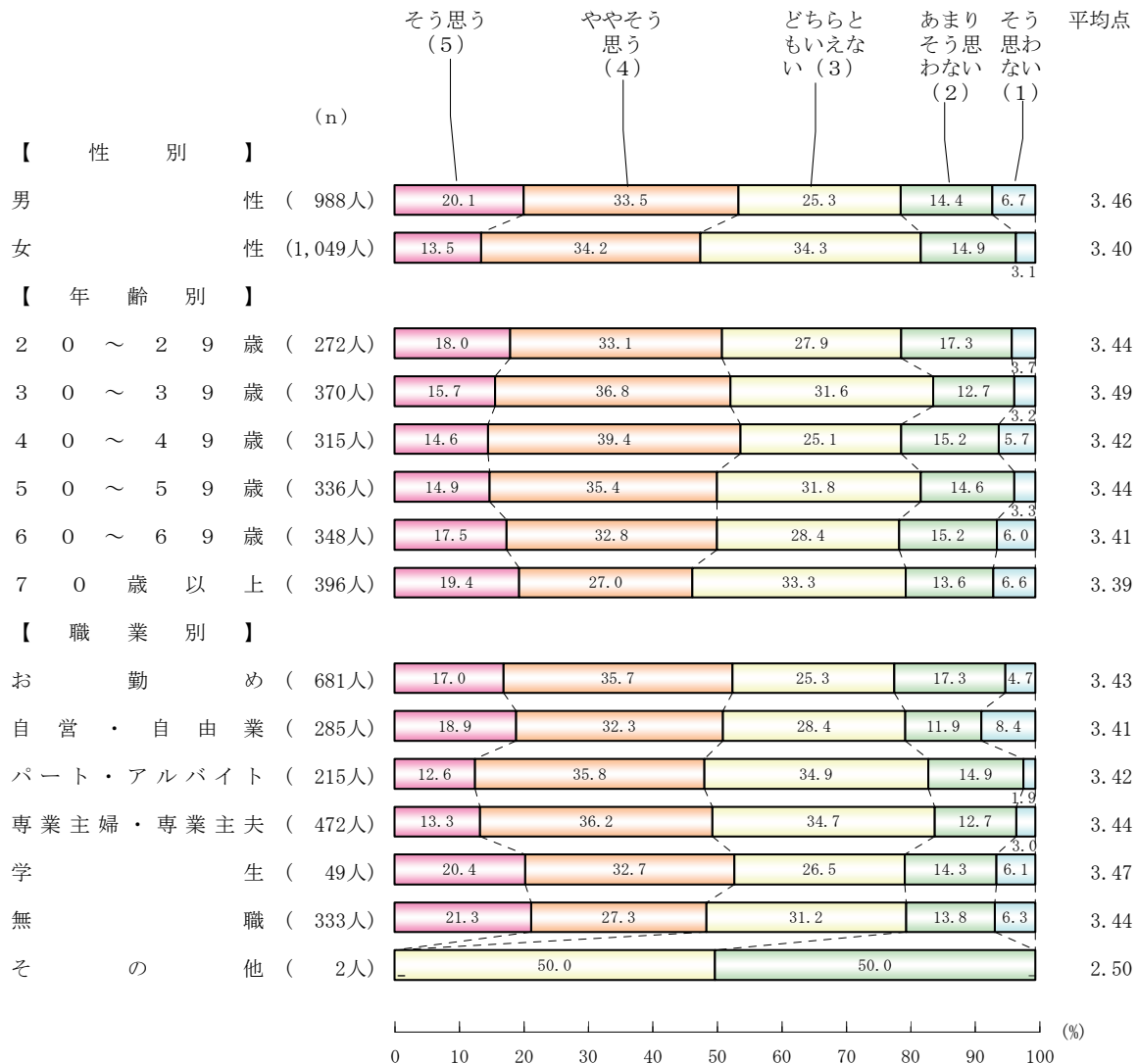
「参加したい」、「参加してもよい」および「あまり参加したくないが、義務であれば参加せざるを得ない」は比較的若年層で高く、「義務であっても参加したくない」は高齢層で高くなっている。

1 1 刑事裁判や司法などに国民が自主的に関与すべきか

Q 1 1 [回答票 1 1] 刑事裁判や司法など公の事柄については、国や専門家に任せておくのではなく、国民が自主的に関与すべきであるという考え方について、あなたはどのように思いますか。

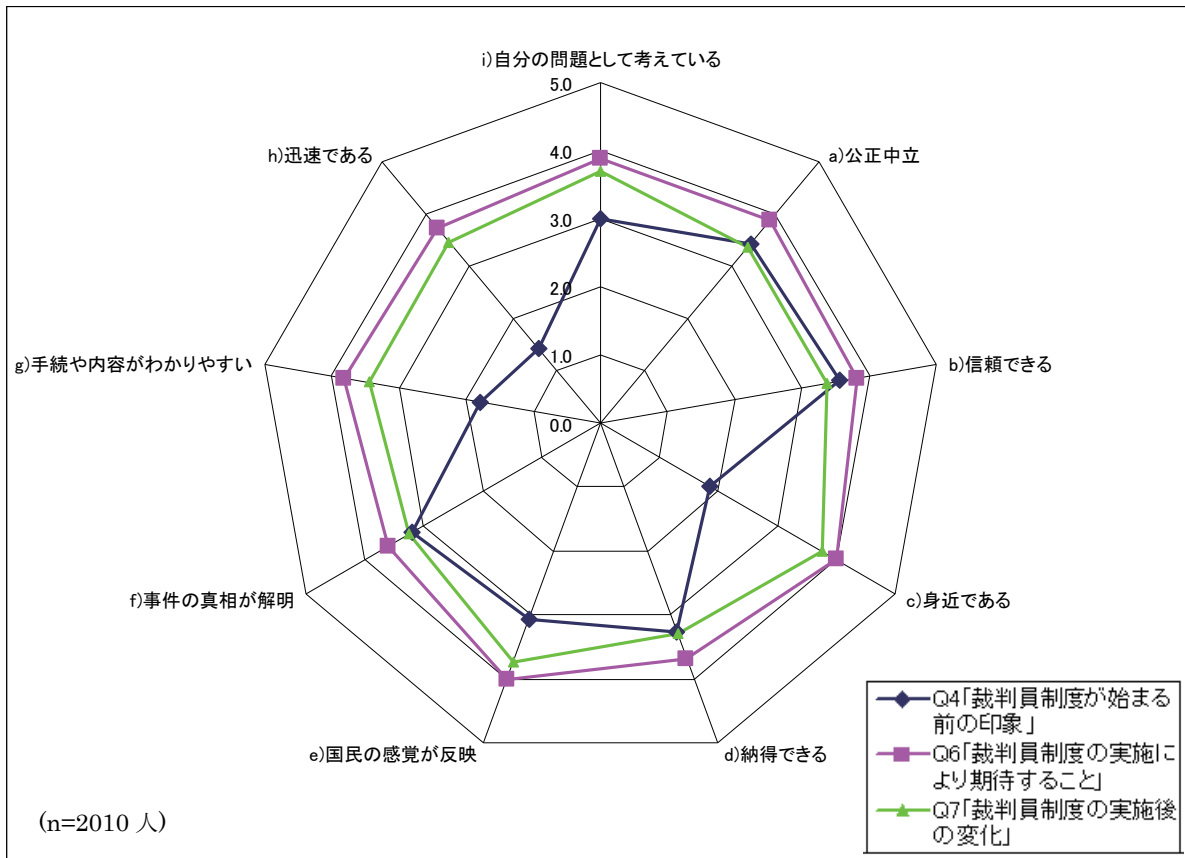


刑事裁判や司法などに国民が自主的に関与すべきかどうかという考え方については、『そう思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」）は 50.6%，一方、『そう思わない』（「あまりそう思わない」＋「そう思わない」）は 19.4%である。



『そう思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」）は男女別にみると、女性より男性で高くなっている。

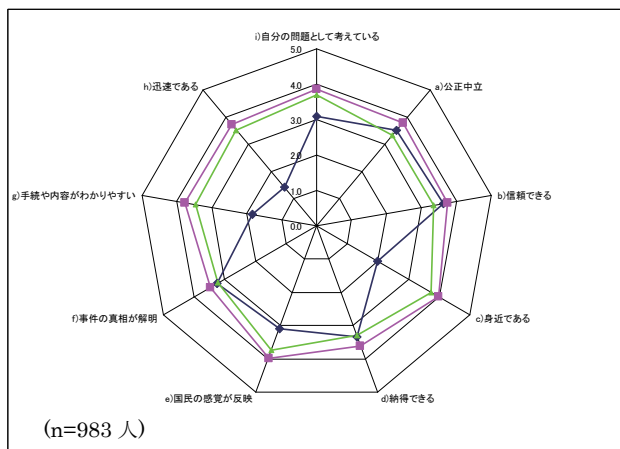
## 1 2 制度開始前・実施への期待・実施後の変化



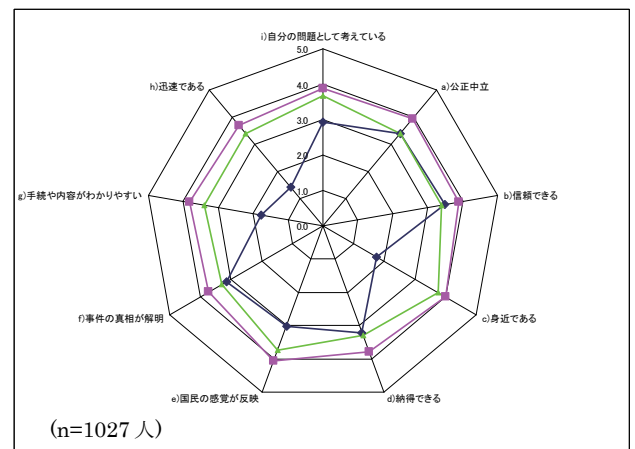
Q 4 : 「裁判員制度が始まる前の印象」、Q 6 : 「裁判員制度の実施により、期待すること」、Q 7 : 「裁判員制度の実施後の変化」の各問の9項目それぞれの点数を比較してみると、「身近である」、「手続や内容がわかりやすい」、「迅速である」はQ 4よりもQ 6・Q 7の点数が大きいことが目立つ。また「自分自身の問題として考えている」と「国民の感覚が反映」も認識よりも実施後の変化の得点が高い。

この傾向は性別・年齢別にみた場合もほぼ同様に表れている。

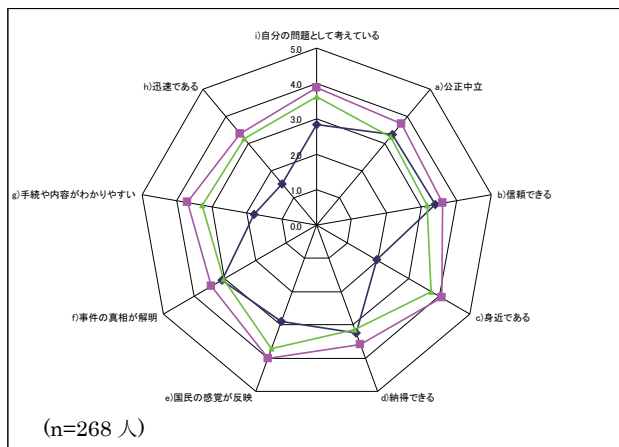
### 男性



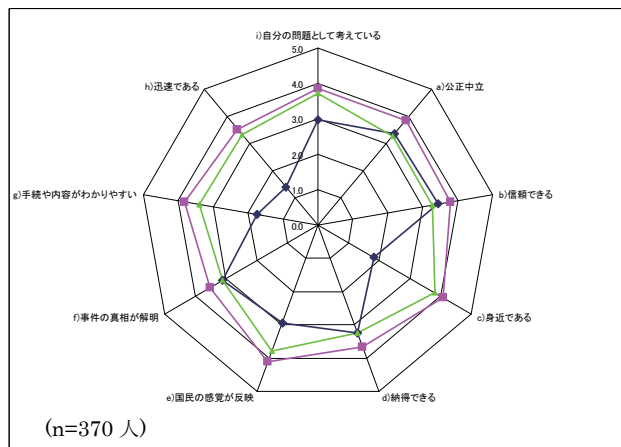
### 女性



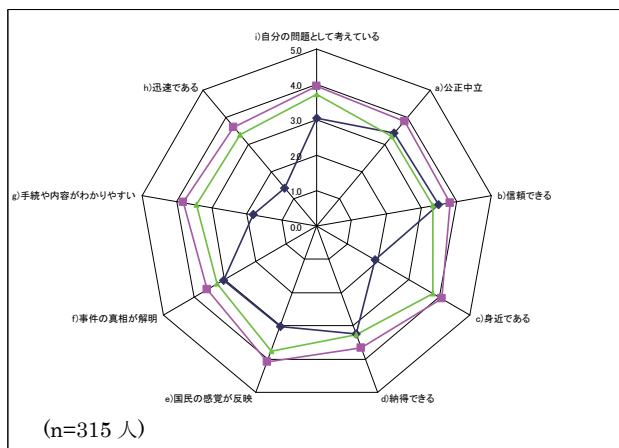
20代



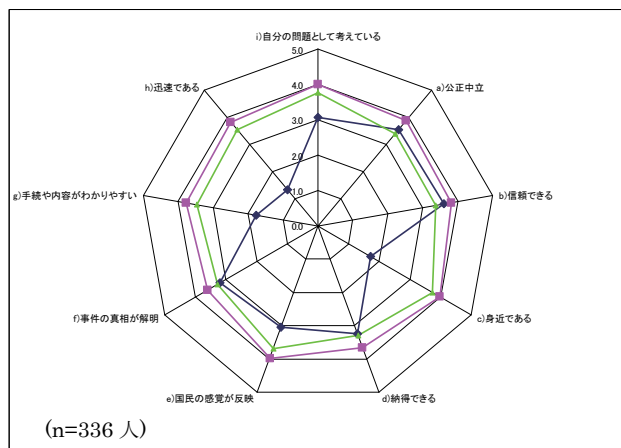
30代



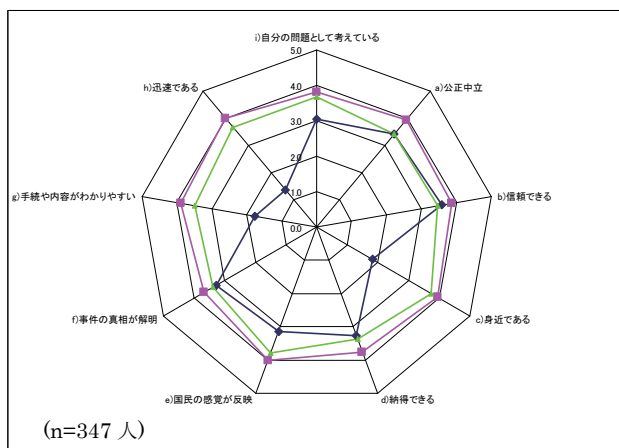
40代



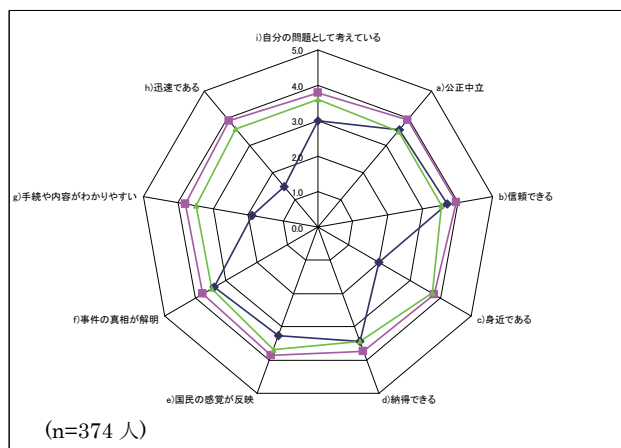
50代



60代



70歳以上



### Ⅲ 調査票（付：単純集計結果）

#### 裁判員制度の運用に関する意識調査

平成 22 年 1 月

Q 1 【回答票 1】あなたは「裁判員制度」について、次に挙げる事項をご存知ですか。  
（a）～（c）の各項目ごとに「知っている」「知らない」のいずれかをお答えください。

	知っている	知らない
(a) 裁判員制度が開始された	98.2	1.8
(b) 裁判員制度は、国民が裁判員として刑事裁判に参加し、裁判官と一緒に、有罪・無罪の判断や刑の内容（重さ）を決める制度である	96.6	3.4
(c) 選挙権のある人（有権者）であれば、原則として、誰でも裁判員に選ばれる可能性がある	93.3	6.7

※（a）～（c）ですべて「知らない」と回答した人は、5ページのQ10へ

【Q1でひとつでも「1 知っている」と回答した人にQ2～Q9を聞く】

Q 2 【回答票 2】では、先ほど伺った裁判員制度についてご存知の事柄を何から知りましたか。この中からいくつでもあげてください。（M. A.）

74.2(ア) 新聞報道	7.3(キ) 各種パンフレット
7.9(イ) 雑誌	15.1(ク) 家族・友人・知人等の話
2.7(ウ) 書籍等	8.7(ケ) 勤務先での話
96.5(エ) テレビ報道	2.6(コ) 裁判員制度に関する各種説明会
13.7(オ) ラジオ報道	1.0 その他（具体的に )
11.7(カ) インターネット	0.0 わからない

(M. T. =241.4%)

Q 3 【回答票 3】 裁判員制度が開始されてから、あなたの裁判や司法への興味や関心に変化はありましたか。

43. 4(ア) 以前に比べて興味や関心が増した

1. 1(イ) 以前に比べて興味や関心が減った

55. 5(ウ) 特に変わらない

Q 4 【回答票 4】 あなたは、我が国の刑事裁判について、裁判員制度が始まる前にはどのような印象を持っていましたか。次の (a) ~ (i) のそれぞれについて、あてはまるものを1つ選んでください。まず、「(a) 公正中立である」についてはどうですか。  
〔以下(b)~(i)について聞く〕

	そう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない	(平均点)
(a) 公正中立である	20.4	22.4	42.4	11.0	3.7	3.45
(b) 信頼できる	19.4	32.3	34.2	11.8	2.3	3.55
(c) 裁判所や司法は近づき難い印象がある	50.0	26.4	14.4	6.0	3.1	1.86
(d) 納得できる裁判（判断）が行われている	10.5	27.4	45.2	13.1	3.7	3.28
(e) 国民の感覚が反映された裁判（判断）がされている	7.1	21.5	47.5	18.6	5.3	3.07
(f) 事件の真相が解明されている	7.6	28.6	43.9	15.3	4.7	3.19
(g) 裁判の手続や内容が難しい、わかりにくい	50.5	26.7	16.7	4.6	1.5	1.80
(h) 裁判に時間がかかる	73.3	14.7	9.6	1.6	0.8	1.42
(i) 刑事裁判や司法など公の事柄について、国民の関心が高く自分の問題として考えている	9.9	20.3	39.2	21.5	9.1	3.00



Q5 【回答票5】あなたが前問のような印象を持つことになった原因は何ですか。この中からいくつでもあげてください。(M. A.)

- |                |                            |
|----------------|----------------------------|
| 70.2(ア) 新聞報道   | 1.4(ク) 裁判傍聴                |
| 9.5(イ) 雑誌      | 9.6(ケ) 家族・友人・知人等の話         |
| 4.1(ウ) 書籍等     | 4.5(コ) 勤務先での話              |
| 89.6(エ) テレビ報道  | 4.2(サ) 専門家、識者等の話           |
| 11.0(オ) ラジオ報道  | 3.7(シ) 特に原因はなく、自分でそのように考えた |
| 9.2(カ) インターネット | 0.5 その他(具体的に )             |
| 1.5(キ) 裁判への関与  | 0.5 わからない                  |

(M. T. =219.4%)

Q6 【回答票6】あなたが裁判員制度の実施により、期待することは何ですか。次の(a)～(i)のそれぞれについて、あてはまるものを1つ選んでください。

まず、「(a) 裁判がより公正中立なものになる」についてはどうですか。〔以下(b)～(i)について聞く〕

	そう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない	(平均点)
(a) 裁判がより公正中立なものになる	33.8	32.5	24.2	7.2	2.3	3.88
(b) 裁判がより信頼できるものになる	29.9	34.0	26.8	7.3	2.1	3.82
(c) 裁判所や司法が身近になる	33.9	39.7	19.7	4.8	1.9	3.99
(d) 裁判の結果(判断)がより納得できるものになる	23.2	33.3	35.0	6.4	2.1	3.69
(e) 裁判の結果(判断)に国民の感覚が反映されやすくなる	34.3	38.7	21.4	4.3	1.3	4.00
(f) 事件の真相がより解明される	23.0	29.5	35.8	8.4	3.3	3.60
(g) 裁判の手続や内容がわかりやすくなる	26.9	37.4	27.5	5.6	2.6	3.80
(h) 裁判が迅速になる	29.4	29.3	29.6	8.1	3.7	3.73
(i) 刑事裁判や司法など公の事柄について、国民の関心が増して自分の問題として考えるようになる	27.9	41.7	23.4	4.8	2.2	3.88

Q7 【回答票7】あなたは裁判員制度の実施後の変化について、どのような印象を持っていますか。次の(a)～(i)のそれぞれについて、あてはまるものを1つ選んでください。まず、「(a) 裁判がより公正中立なものになった」についてはどうですか。〔以下(b)～(i)について聞く〕

	そう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない	(平均点)
(a) 裁判がより公正中立なものになった	10.3	28.2	51.6	7.9	2.0	3.37
(b) 裁判がより信頼できるものになった	9.5	31.4	48.3	8.3	2.5	3.37
(c) 裁判所や司法が身近になった	22.0	42.0	27.7	6.5	1.8	3.76
(d) 裁判の結果(判断)がより納得できるものになった	8.5	27.5	52.8	8.6	2.6	3.31
(e) 裁判の結果(判断)に国民の感覚が反映されやすくなった	19.8	42.8	31.2	4.7	1.5	3.74
(f) 事件の真相がより解明されている	8.7	25.6	52.4	10.1	3.2	3.26
(g) 裁判の手続や内容がわかりやすくなった	12.4	33.9	41.0	9.6	3.0	3.43
(h) 裁判が迅速になった	15.8	31.2	40.4	9.4	3.2	3.47
(i) 刑事裁判や司法など公の事柄について、国民の関心が増して自分の問題として考えるようになった	19.7	39.4	32.7	6.3	1.9	3.69

Q8 【回答票8】あなたが前問のような印象を持つことになった原因は何ですか。この中からいくつでもあげてください。(M. A.)

- |                 |                            |
|-----------------|----------------------------|
| 69.6(ア) 新聞報道    | 0.8(ク) 裁判傍聴                |
| 8.3(イ) 雑誌       | 9.3(ケ) 家族・友人・知人等の話         |
| 2.5(ウ) 書籍等      | 4.1(コ) 勤務先での話              |
| 90.0(エ) テレビ報道   | 3.3(サ) 専門家、識者等の話           |
| 11.7(オ) ラジオ報道   | 3.9(シ) 特に原因はなく、自分でそのように考えた |
| 10.0(カ) インターネット | 0.2 その他(具体的に )             |
| 1.4(キ) 裁判への関与   | 0.8 わからない                  |

(M. T. =216.1%)

Q 9 【回答票 9】あなたが刑事裁判に参加するとした場合、あなたにとって心配や支障となるものはどれですか。当てはまると思うものを、次の中からすべてお聞かせください。

(M. A.)

- 76.1(ア) 自分たちの判決で被告人の運命が決まるため、責任を重く感じる
- 61.0(イ) 素人に裁判という難しい仕事を正しく行うことはできないのではないかと不安がある
- 50.7(ウ) 専門家である裁判官と対等な立場で自分の意見を発表できるか自信がない
- 49.7(エ) 冷静に判断できる自信がない
- 48.2(オ) 被告人やその関係者の逆恨み等により、身の安全が脅かされるのではないかと不安がある
- 35.1(カ) 裁判員の職務を通じて知った秘密を守り通せるか自信がない
- 38.1(キ) 裁判に参加することで仕事に支障が生じる
- 17.5(ク) 裁判に参加することで養育や介護に支障が生じる
- 3.6(ケ) 特にない
- 2.3 その他(具体的に )
- 0.7 わからない

(M. T. =383.1%)

---

(全員に)

Q 10 【回答票 10】あなたは裁判員として刑事裁判に参加したいと思いますか。

- 7.2(ア) 参加したい
- 11.3(イ) 参加してもよい
- 43.9(ウ) あまり参加したくないが、義務であれば参加せざるを得ない
- 36.3(エ) 義務であっても参加したくない
- 1.3 わからない

---

Q 11 【回答票 11】刑事裁判や司法など公の事柄については、国や専門家に任せておくのではなく、国民が自主的に関与すべきであるという考え方について、あなたはどのように思いますか。

16.7	33.9	29.9	14.6	4.8
(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)	(オ)
そう思う	ややそう思う	どちらとも いえない	あまりそう 思わない	そう思わない

(平均点 3.43)

最後に、ご回答を統計的に分析するために、あなたご自身のことについて伺います。

《フェース・シート》

F 1 【 性 】 (調査員判断)

48.5 男 性

51.5 女 性

---

F 2 【年 齢】あなたのお年は満でいくつですか。

13.4	18.2	15.5	16.5	17.1	19.4
20～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～69 歳	70 歳以上

---

F 3 【職 業】【回答票 1 2】あなたのご職業をお聞かせください。この中から当てはまるものを1つ選んでください。

- 33.4(ア) お勤め (公務員・会社経営者を含む)
  - 14.0(イ) 自営・自由業
  - 10.6(ウ) パート・アルバイト
  - 23.2(エ) 専業主婦・専業主夫
  - 2.4(オ) 学 生
  - 16.3(カ) 無 職
  - 0.1 その他 (具体的に )
- 
- 

以上で面接調査は終了です。  
ご協力ありがとうございました。

## 標本抽出方法

母集団：全国の市区町村に居住する満20歳以上の者

目標回収数：2,050人

地点数：125地点

抽出方法：層化2段無作為抽出法

### 〔層化〕

1. 全国の市町村を、都道府県を単位として次の11地区に分類した。

(地区)

北海道地区＝北海道	(1道)
東北地区＝青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県	(6県)
関東地区＝茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、 神奈川県	(1都6県)
北陸地区＝新潟県、富山県、石川県、福井県	(4県)
東山地区＝山梨県、長野県、岐阜県	(3県)
東海地区＝静岡県、愛知県、三重県	(3県)
近畿地区＝滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県	(2府4県)
中国地区＝鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県	(5県)
四国地区＝徳島県、香川県、愛媛県、高知県	(4県)
北九州地区＝福岡県、佐賀県、長崎県、大分県	(4県)
南九州地区＝熊本県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県	(4県)

2. 各地区においては、さらに都市規模によって次のように23分類しそれぞれを第1次層として、計63層とした。

○ 大都市（都市ごとに分類）

（東京都区部、札幌市、仙台市、さいたま市、千葉市、横浜市、川崎市、新潟市、静岡市、  
浜松市、名古屋市、京都市、大阪市、堺市、神戸市、岡山市、広島市、北九州市、福岡  
市）

○ 人口20万人以上の都市

○ 人口10万人以上の都市

○ 人口10万人未満の都市

○ 町村

（注）ここでいう都市とは、平成21年4月1日現在市制施行の地域である。

また、人口による都市規模の分類は、住民基本台帳に基づく平成21年3月31日現在の人口による。

〔目標回収数の配分及び調査地点数の決定〕

地区・都市規模別各層における母集団数（平成21年3月31日現在の20歳以上人口）の大きさにより目標回収数及び調査地点数を配分した。

〔抽出〕

1. 第1次抽出単位となる調査地点として、平成17年国勢調査時に設定された調査区を使用した。
2. 調査地点（調査区）の抽出は、調査地点数が2地点以上割り当てられた層については、

$$\text{抽出間隔} = \frac{\text{層における国勢調査時の当該母集団人口（計）}}{\text{層で算出された調査地点数}}$$

を算出し、等間隔抽出法によって抽出した。また、層内での調査地点数が1地点の場合には、乱数表により無作為に抽出した。

3. 抽出に際しての各層内における市区町村の配列順序は、平成17年国勢調査時の、市区町村コードに従った。
4. 調査地点における対象者の抽出は、性別年代別人口構成に応じて設定された目標回収数に達するまで行った。